

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2021年3月18日

堀江織物株式会社

常に時代を読み、納期と信頼を武器に成長

「はたや（機屋）」からスタートした堀江織物株式会社。時代の荒波の中、常に先を見据え、織物から家具販売、のぼり旗に事業を変化。チャレンジと変革で家族経営から従業員80人の企業へと成長に導いた代表取締役社長の武田浩志氏に話を聞いた。

Company Data

社名：堀江織物株式会社

代表取締役社長 武田 浩志

住所：一宮市高田字七夕田 28

電話：0586-53-2525

URL：<https://horieorimono.co.jp>

紹介金融機関：愛知銀行



環境・市場の変化を敏感にとらえた事業転換

当社の歴史は戦前までさかのぼります。1969年、繊維業いわゆる「はたや」として法人設立しました。しかし、1973年のオイルショックにより繊維業界が縮小したため、好調であった家具業界に参入し、家具の小売りを始めました。元々はたやであったこともあり、徐々に婚礼の飾りづくりなど繊維の技術を活かした仕事を増やし、そしてそれらのノウハウを応用し、現在の主力事業である店頭でのぼり旗を始めました。

当時ののぼり旗は「大売出し」と書いただけのものがほとんどでしたが、主な顧客である家具屋から意見をいただきながら「家具大売出し」とのぼりの表記を変え販売しました。小さな工夫でしたが、これにより受注を大きく伸ばすことができました。

また、のぼり旗の素材が綿からポリエステルに変わる転換期においては、いち早くポリエステルの有用性に着目し、同素材に印刷できる機械を導入し事業を拡大していくことを計画しました。ところが、昭和天皇崩



御を機に、自粛ムードとなり、予定していた仕事が全てなくなってしまいました。当時は途方に暮れましたが、今思えば、導入したての機械を習熟する時間を与えていただいたと考えています。

その後受注が回復しましたが、2008年のリーマンショックを機に売上は再び減少しました。しかし、仕事の内製化や業務の見直し、人員配置の効率化などで対応し乗り越えることができました。これも今思えば、無駄の洗い出しに必要な時間だったと思っています。最近ではのぼり旗のみでなく、アニメやアイドルのタペストリーなどの取り扱いも開始しました。とても大きな市場なので、今後が楽しみです。

製造を一本化し、効率を追求

同じものを大量生産する時代から、必要なものを必要な分だけ、という時代に変化してきていると感じています。だからこそ、100枚全部同じ柄のTシャツを作るのではなく、100の柄を一枚ずつ作れるオンデマンドに魅力を感じ、当社では、昨年からはオンデマンドアパレルのTシャツ作りを始めました。すでにシステムと設備は整え、さらに建設中の新工場では、印刷と後工程とで分かれている作業場を集約化し、製造を1本化する計画です。効率化を一層進め、サンプル出しであっても「すぐに」提供できる、そんなニーズに対して迅速な対応ができる環境を整備します。

新工場で従業員・お客さまともに満足度向上

新工場の建設は、労働環境改善にも寄与します。会社は長時間働く場所なので、「気持ちよく働ける環境」であることを大切にしています。なぜなら、従業員の満足度が向上することにより、一層お客さまに寄り添った対応が可能となり、ひいてはお客さまからの信頼にもつながると考えているからです。

当社がのぼり旗業界に参入して、お客さまの信頼を得たのはこうした社員を大切にする姿勢に加えて、「納期を守る」を貫いたからだと考えています。現在よりも納期の意識が緩やかだった時代から、当社では納期を厳守し、品質チェックも怠らず、お客様の目線にたった対応を貫いてきました。お客さまからの仕事や問い合わせには「できない」は極力言わず、誠実な対応をしてきました。今もその姿勢は変わりません。

新たな挑戦、「オープンファクトリー」で未来のものづくりへ

当社の自慢は、みんなが助け合い共同して業務を行っていく「和」です。社員が一丸となり助け合って、共に良いもの作り、お客さまに届けています。また、新しいことに積極的にチャレンジする姿勢も自慢です。そのため、仮に失敗しても決して責めることはありません。のぼり旗事業も軌道に乗るまでは失敗ばかりでしたが、そうやって失敗を繰り返してきたからこそ今があると思っています。



そして、今チャレンジしているのは、「オープンファクトリー」です。様々な分野の製造業を連携させ、プラットフォーム化する。これにより、お客さまのどんなものづくりの要望にも対応でき、注文の際の手間を大幅に軽減できます。また、プラットフォーム内の企業同士もリソースの融通など効率化につながります。

まだ始まったばかりの取り組みですが、この地域にある素晴らしいものづくり企業とのご縁等を通じ、オープンファクトリーを成長させ「堀江織物にしか頼めない」と言ってもらえるように育てていきます。